

## IFRS 財団評議員会による 戦略レビュー報告書へのコメントレター

### はじめに

国際財務報告基準財団（IFRS 財団）評議員会による IFRS 財団の今後 10 年の戦略レビューは、昨年 11 月 5 日に「公開コンサルテーション文書：トラスティの戦略レビューについてのステータス」が公表され、世界の市場関係者からのコメント募集が開始された。IFRS 財団は本年 2 月 24 日に締め切られた前述の世界の市場関係者からのコメントを分析／参考とし、4 月 28 日に戦略レビュー報告書としてまとめ公表した。さらに、IFRS 財団は 6 月に東京を含む世界 4 か所で本件に関する円卓会議を開催し広く市場関係者の意見を聞くと共に、7 月 25 日締め切りでこの戦略レビュー報告書に対するコメント募集を求めた。

### FASF の対応

財務会計基準機構（FASF）は昨年から IFRS 財団への日本側拠出金の拠出窓口となったこともあり、2 月 24 日締め切りの前述コメント募集に対し FASF としてコメントレターを提出した。今回の戦略レビュー報告書に関する東京での円卓会議にも、FASF は参加し意見発信を行った。7 月 25 日締め切りの戦略レビュー報告書に対するコメント募集については、今回はミッション、プロセスの領域については企業会計基準委員会（ASBJ）の意見を中心にコメントしたため、FASF と ASBJ の連名でのコメントレター提出とした。コメントレターの全文の日本語は以下のとおりであり、コメントレターの本文（英文）は IFRS 財団のホームページにて確認できる。

2011 年 7 月 25 日

The Trustees of IFRS Foundation  
30 Cannon Street  
London EC4M 6XH  
United Kingdom

Dear Trustees,

### 評議員会の戦略レビュー報告書に対するコメント

我々、公益財団法人財務会計基準機構（FASF）、及び企業会計基準委員会（ASBJ）は、高品質で単一の国際会計基準の確立という目的を達成するために、次の 10 年に向けた戦略の包

括的な見直しに引き続き取り組む IFRS 財団の努力に敬意を表する。また今回、「IFRS 財団評議員による戦略 Review の 4 月 28 日付報告書」に対するコメントの機会を得られたことを歓迎する。

今回の報告書はコメントを提出した多くの市場関係者の意見を反映させたものであり、IFRS 財団の今後 10 年間の戦略の纏めとしては概ね妥当なものと思われる。

また、本件と並行して進んでいる IFRS 財団のモニタリングボードのガバナンス見直しの結論と調整されることを評価し、その成果により今後 10 年間の IFRS 財団の戦略が明確になることを期待している。

提言されている 4 つの領域に対する我々の個々のコメントは以下の通りである。

## 1. Mission

我々は、IASB が IFRS の概念フレームワークにある財務諸表の目的に沿い、「企業の財政状態および業績の忠実な表現を提供する財務報告基準を開発すべきである」という意見に同意する。そのことが「財務報告の全ての利用者における財務報告の透明性と誠実性への信頼」となり「資本市場に有効に機能し、効率的な資金配分、国際的な金融安定及び健全な経済成長にとって極めて重要」との意見に同意する。

この際、現在の IFRS 設定プロセスにおいて、財務諸表利用者として、投資家のみならず、幅広い市場関係者の観点が考慮されているものと理解する。

また、高品質で国際的な単一の会計基準の確立という IFRS 財団の長期的なゴールを達成するためには、現在、各法域が有している独自の法的枠組み、特有の商慣行と基準との整合性、及び各法域の主権との調整、等々、固有の問題の解決を図りつつ進めることが必要となる。従って、コンバージェンスも、それらの問題の実務的な解決策の一つとして認められるべきであると考える。

## 2. Governance

「基準設定の意思決定プロセスにおける IASB の独立性を、公的説明責任の枠内で維持しなければならない」との意見に同意する。また、現行の 3 層構造が公的説明責任のニーズと基準設定プロセスの独立性とのバランスを確保しており、その観点から現行の 3 層構造によるガバナンスを適切とする報告書の意見に同意する。また、評議員会の監督機能の強化に関して、評議員会の Due Process 監督委員会の役割を強化し、同委員会が主要なプロジェクトに関する IASB の Due Process の状況を定期的に検討するという提案にも同意する。

しかし、我々は現行の 3 層構造のガバナンス体制が大きな問題を抱えているとは考えておらず、その観点からモニタリングボードの急激な規模拡大や、モニタリングボードの役割を IASB の議題設定や議長選任等に関して大きく拡大させることには慎重であるべきと考える。

また、IFRS が世界の主要な市場において受け入れられる単一の国際会計基準になるという

目標の達成には相当の時間が必要なことを考慮すれば、Summary に記述されているように、特定の国が、特定の時期に IFRS 導入に関しての判断を行うことが、IFRS 財団及び IASB のメンバーの地域別配分案の修正につながる可能性がある、との意見に反対する。

### 3. Process

「完全で透明な Due Process は、高品質で国際的に認められる会計基準を提供するのに不可欠である」との意見に同意する。品質の高い基準作りのためには、各国スタンダードセッターの機能も十分に活用することを希望する。その意味では、C4 に指摘されているような Formal co-operation arrangement は支持できる提案と考える。

また、基準開発プロセスの透明性をより高めるため、基準開発の着手段階から基準設定主体を含む多くの関係者の意見を聞くべきであり、それらの意見が基準設定プロセスにおいてどのように反映されたのか、その結果を関係者にフィードバックするべきと考える。特に、この点からも影響分析は重要と考える。

また、IFRS 財団のリサーチ能力の向上は必要であるが、その機能の一部は各国スタンダードセッターの協力を仰ぐことで、解決できるものと考えている。従って、組織の肥大化、費用拡大の懸念があることからすぐに専任の調査担当組織を新設することには賛成しない。なお、影響分析やリサーチなどの作業を進めるに当たって、例えば、アジア・オセアニア地域に設置が予定されているリエゾン・オフィス等を活用することが想定できる。

### 4. Financing

前回のコメントレターにおいても述べたが、現状では各国の実際の拠出が必ずしも IFRS 財団の要請通りになっておらず、そのことが IFRS 財団の財政的な問題に繋がり、各国の拠出が各国の経済実態を公平に反映していないという大きな問題がある。まずは、トラスティ全体としてこの事態を早期に解決するよう積極的に対応することが望まれる。

また、今後 10 年間の戦略を検討する際に、提案では、「長期的で、公的に支援され、さまざまな仕組みが利用でき予算ニーズに適合できるような柔軟性があり、合意された公式に基づき各法域間において負担され、十分な組織的説明責任を提供するような資金調達」の必要性が述べられているが、それらの具体的な資金調達方法の目処が立たない段階では、予算規模の急激な拡大提案は慎重であるべきと考える。

Sincerely yours,

Hideo Takahashi  
Secretary General  
Financial Accounting Standards Foundation (Japan)

Ikuo Nishikawa  
Chairman

## おわりに

IFRS 財団評議員会の戦略レビューの最終的なまとめは、同時並行して進められている、IFRS 財団モニタリングボードによるガバナンス見直しの結果に基づく提案と最終的に調整される、とされており、我々は引き続きこれらの動きに注目していきたい。